J. Jpn. Soc. Soil Phys.
土壌の物理性
No. 103, p. 63～68（2006）

「土壌の物理性」編集実務の記録

吉迫　宏*・岩田幸良**

Record of the Recent Editing Works for Publishing the "Journal of the Japanese Society of Soil Physics"

Hiroshi YOSHISAKO* and Yukiyoshi IWATA**

* National Institute for Rural Engineering, National Agriculture and Food Research Organization Kan-nondai 2-1-6, Tsukuba, Ibaraki, 305-8609 Japan
** National Agricultural Research Center for Hokkaido Region, National Agriculture and Food Research Organization, Shinsei, Memuro, Hokkaido, 082-0071 Japan

は　じ　め　に

土壌物理学会では，会員の要望や社会の要請に応える学会誌となるよう，「土壌の物理性」の編集を行っています。この「会員の要望や社会の要請に応える学会誌」を実現するということは，学会のあり方にも関わる大きな課題であると同時に，編集に関わる実務を日々確実にこなし，「土壌の物理性」を毎号発行するという，編集実務に関わる具体的かつ地道な作業でもあります。

本報では，編集委員会と編集幹事が担っている編集実務を中心に，2003 年度以降の取り組みを報告します。

「土壌の物理性」編集発行作業の流れ

「土壌の物理性」は第 76 号（1997 年発行）以降，1 年間に 3 号を発行しています。年間 2 号発行時代からの「掲載原稿が一定数集まった時点で発行する」という慣習が長く引き継がれていましたが，学術雑誌としての体裁をより整えるという編集方針の下，2003 年度を移行期間として，2004 年度から 7 月，11 月，及び 3 月に定期発行する体制としています。

各年度の「土壌の物理性」の基本的な編集方針は，前年度末ないし年度初めに開催する編集委員会で決定されます。現在，7 月・11 月発行号は自主投稿原稿を主体に編集，3 月発行号は自主投稿原稿と共にシンポジウム特集号としてその年度に開催された土壌物理学会シンポジウムの関連記事を掲載しています。

「土壌の物理性」の編集発行に関わる実務は，編集委員会における「各年度の編集方針の決定→各号の編集方針の決定→掲載原稿の決定」という意思決定に基づき，「掲載原稿の集稿→印刷原稿の作成→印刷所への出稿→校正（著者校正を含む）→印刷製本→会員への発送」という編集発行に関わる作業と，編集関係規定類に従って随時行われる「投稿原稿の受付→閲読→原稿の受理（返却）」の諸作業があります。以下，「土壌の物理性」が会員の手元に届くまでを作業の流れに沿って説明します。

投稿原稿の受付から閲読まで

編集委員長宛に届いた投稿原稿は編集関係規定類（「投稿規定」「投稿案内」「原稿執筆要領」など）に従い，原稿の受付（原稿の体裁や必要書類等の確認）を行った後に，閲読を行っています。受け付けた原稿はなるべく迅速に閲読を行い，その結果を早く著者に返すように以前から努めていましたが，2003 年度までに行った編集関係規定類の改正に合わせ，より迅速に事務処理を行うために，作業手順も見直しました。

著者の手元に閲読の結果が届くまでの編集委員会の作業としては，原稿の受付，閲読者の選定と閲読依頼，閲読者への書類一式の発送，返送されてきた閲読結果の整理と編集委員会としての判断，著者宛の通知書類の作成と発送などがあります。2003 年度からは，届いた原稿に対しては直ちに閲読者を選定して閲読を依頼すると共に，事務処理も作業手順等を体系化・標準化し，同封する書類の書式なども規定類に従って整備しました。また，閲読期間も原則として書類発送日の 25 日後とし，「閲読の手引き」も同封して期限の厳守を閲読者に徹底するようにしました。

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所　〒305-8609 茨城県つくば市観音台 2-1-6
** (独)農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター　〒082-0071 北海道河西郡芽室町新生
キーワード：学会誌，編集

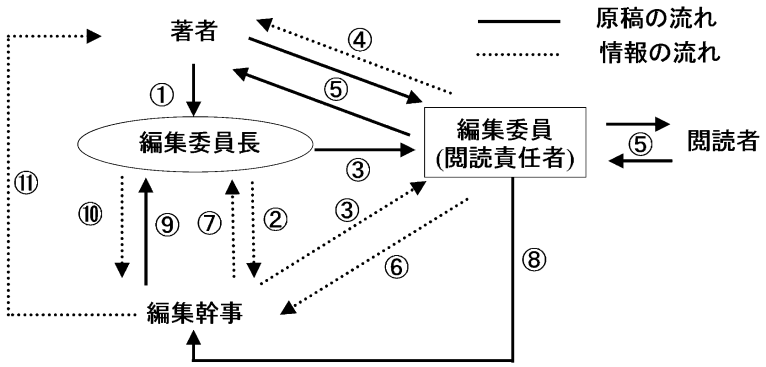
2003年度は不慣れな部分等もあり，著者への返送まで時間を要した原稿もありました。しかし，2004年度はこのシステムも軌道に乗り，投稿区分「論文」の全原稿について，原稿が到着してから2ヶ月半以内に閲読結果を著者へ発送しました（この集計結果は再閲読時と再々閲読時を含み，3人目の閲読者を立てた場合は除外した）。

閲読作業手順の体系化・標準化が確立され，閲読原稿の処理の迅速化に目処が付いたことから，2005年度には編集体制の見直しについて編集委員会で議論しました。その結果，それまで編集委員長が編集委員会を代表して行っていた閲読者の選定や閲読結果に対する受理等の判断，編集幹事が行っていた事務作業について，投稿原稿ごとに担当編集委員を定め，この担当編集委員が編集委員会を代表して必要な判断や事務作業を行っています（図-1）。この変更の意図は，将来予想される原稿の増加にも耐えられるような閲読体制の確立にあります。すなわち，後に示すように原稿数が増加傾向にあり，編集委員長と編集幹事の負担がさらに増えて，様々な決定・チェックに十分な時間がとれなくなることで重大なミスが起きる危険を未然に防ぐ意味があります。また，閲読に関する難しい判断が必要になったときに，編集委員長と担当編集委員で話し合いながら作業ができるため，より客観的な判断を下せる可能性があります。なお，新しい体制でも編集委員長が編集委員会を代表して最終的な受理の判定をおこないます。このため，編集委員会事務局では，つねに全ての原稿の進行状況を把握し，閲読に遅れが出ている場合には閲読担当編集委員に状況確認や適切な処置を依頼することで，閲読に大きな遅れが出ないように努めています。

編集委員会が「投稿案内」の基準に従って「受理」と判断した投稿原稿については，最終原稿の作成を著者に依頼し，文書や図表等のファイルを含め，提出頂いています。

掲載原稿の集稿と印刷原稿の作成

学会誌の発行時期が近づくと，発行号の編集方針と掲載原稿を決定するための編集委員会が開催されます。編集委員会では，各年度の発行方針に沿って，発行号の具



①	著者からの投稿
②	担当編集委員の通知
③	編集委員長：原稿の送付、編集幹事：原稿受付番号の通知
④	原稿受付の連絡
⑤	編集委員：閲読者の選定、閲読者・著者とのやりとり
⑥	編集委員：閲読状況・掲載可否の通知
⑦	全閲読進行状況の連絡
⑧	掲載可否の決定、閲読終了原稿の送付
⑨	閲読終了原稿の送付
⑩	掲載可否の最終判断の連絡
⑪	掲載決定（もしくは掲載不可）の通知

図-1　2005年度からの閲読体制の模式図

体的な編集方針と掲載原稿を決定します。「受理」と判断された投稿原稿（「論文」「研究ノート」）についても，改めて閲読結果も踏まえて掲載を最終決定します。この時点で，掲載原稿は一覧表として整理されます。参考までに，2003～2005 年度の編集委員会の開催記録を表-1 に示します。

編集委員会の開催と平行して，編集幹事は掲載原稿の集稿を行います。著者に作成を依頼している受理となった投稿原稿の最終原稿や「巻頭言」「講座」「シンポジウム紹介」のような依頼原稿，編集委員長から投稿をお願いした「土粒子」「書評」等の他，会務報告や各種ニュース等の原稿についても担当幹事から集稿します。編集幹事は集まった原稿の体裁などを最終確認し，印刷所へ出稿するための印刷原稿を作成します。あわせて表紙（表・裏）や奥付などの原稿も作成します。

なお，依頼原稿や「土粒子」「書評」等で投稿をお願いする原稿については，各年度の発行計画に基づき，講座やシンポジウム紹介等の各種企画の担当委員や編集委員長が事前に執筆や投稿の依頼を行っています。

印刷所への出稿から会員への発送まで

発行予定日の 2 ヶ月前を目途に，印刷所（現在は創文印刷工業(株)）に原稿を出稿し，印刷と製本を発注します。校正は初校については著者校正を依頼し，再校以降は原則として編集幹事が行っています。

出来上がった「土壌の物理性」の発送作業は，以前は(財)日本学会事務センターに委託していましたが，同センターの破綻後は印刷所に発注しています。

編集関係規定類の改正

編集関係規定類の改正作業は 1999 年度から順次進められてきましたが，2003～2004 年度には規定類上でも学術雑誌の体裁を整えることを 1 つの目的として，「投稿規程」「原稿執筆要領」の改正と従前の「査読に関するお願い」を改訂し引き継ぐものとして「投稿案内」「閲読の手引き」を設け，改正作業を完結しました。参考までに，改正前後の編集関係規定類の対応関係を図-2 に示します。なお，2004 年に行った改正内容の詳細については第 98 号（2004 年 11 月発行）の巻頭頁に掲載しています。

また，外国人著者が増加傾向にあることから，原稿の使用言語は「日本語または英語」であることを「原稿執筆要領」で明記すると共に，著者が外国人のみで英語の原稿に必要な和文の表題や要旨，キーワード等の作成が困難な場合には，編集委員会の責任で英語のものからの和訳でこれらを作成できることも明記しました。合わせて編集委員会の責任で編集関係規定類の英訳を作成して学会ホームページ上に掲載し，外国人投稿者の便を図っています。

表-1　編集委員会の開催状況（2003～2005 年度）

（2003 年度）	内　　容
第 1 回（2003 年 5 月）	「土壌の物理性」2003 年度編集・発行計画/編集関係規定類の改正
第 2 回（2003 年 9 月）	第 94 号編集・発行計画/シンポジウム特集（第 96 号掲載）の編集様式
第 3 回（2003 年 10 月）	投稿原稿の受理について/第 95 号編集・発行計画
第 4 回（2004 年 2 月）	第 96 号編集・発行計画/「土壌の物理性」 2004 年度編集・発行計画/閲読者への謝意について
（2004 年度）	
第 1 回（2004 年 5 月）	第 97 号編集・発行計画/シンポジウム特集（第 99 号掲載）の編集様式/編集関係規定類（改正草案）の討議
第 2 回（2004 年 6 月）	編集関係規定類の改正
第 3 回（2004 年 9 月）	第 98 号編集・発行計画
第 4 回（2005 年 1～2 月）	第 99 号編集・発行計画/英文編集関係規定類（素案ほか）の討議
申し合わせ（2005 年 4 月）	英訳編集関係規定類の作成
（2005 年度）	
第 1 回（2005 年 4 月）	「土壌の物理性」2005 年度編集・発行計画/依頼原稿執筆者の選定/各種講座の立ち上げについて
第 2 回（2005 年 6 月）	第 100 号編集・発行計画/依頼原稿執筆者の決定
申し合わせ（2005 年 7 月）	閲読体制の見直しと変更
第 3 回（2005 年 9 月）	第 101 号編集・発行計画
第 4 回（2006 年 1 月）	第 102 号編集・発行計画/会員拡大メッセージの 102 号掲載の決定

編集の記録

ここで，編集に関するいくつかのデータを示します。

図-3は年間3号となった1997年度以降の2年（役員任期）毎の1号当たりの平均ページ数です。それまで微減傾向にあったページ数が2003〜2004年度と2005年度には大きく増加しています。掲載原稿の筆頭著者は，大学院に在籍する若手から大ベテランまで幅広い年齢層の会員にわたりますが，頁数の増加は「土壌の物理性」が活性化しつつあることを示すものとして受け取って良いものでしょうか。皆様のご議論を待ちたいと思います。

図-4は，四半期別の投稿原稿数（2003〜2005年）です。3ヵ年のデータですが，7〜9月に多い傾向にあることが判ります。この傾向は，大学や研究所が年度末は一般的に忙しいため，原稿を書く時間がとれず，比較的時間がとれる4月以降にデータ解析等を行い，投稿原稿を執筆するという仕事のサイクルを反映している可能性があります。

図-5は閲読に要した日数（2003〜2005年度）です。編集委員会が指定した期日から3日超過した日までに，2003年度は2/3強が，2004年度は3/4弱が，2005年度は6/7強が返送されています。閲読システムの改良に着手した2003年から，年を追うごとに大幅に期日を超過する割合を削減することが出来ました。善意で閲読をお引き受け頂いた方に催促するのは大変心苦しいものがありますが，一方で学位審査や就職などのために首を長くして閲読結果を待っている会員もいます。閲読をお引き受け頂きます方におかれましては，この場を借りて改めて期限の厳守をお願い致します。

情報化と「土壌の物理性」

ところで，今期（2005〜2006年度）は札幌と芽室，前期（2003〜2004年度）も善通寺とつくばと編集委員長と編集幹事は離れた職場の者が担っています。編集委員も，特に前期では東京から佐賀まで全国に散らばっていました。従って，必然的に日常的な連絡打ち合わせから編集委員会の開催まで，インターネット上のメールやメーリングリスト，電子会議システムを活用して行って

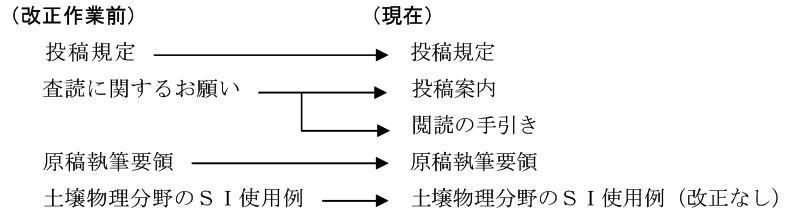


図-2　編集関係規定類の対応表（改正作業前後）

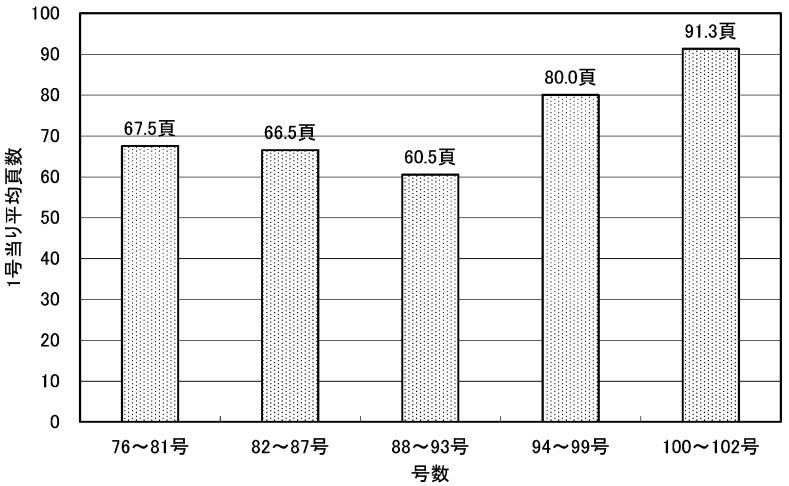


図-3　各期の平均頁数（年3号刊行となった1997年度以降，100〜102号は1年分のみの平均）

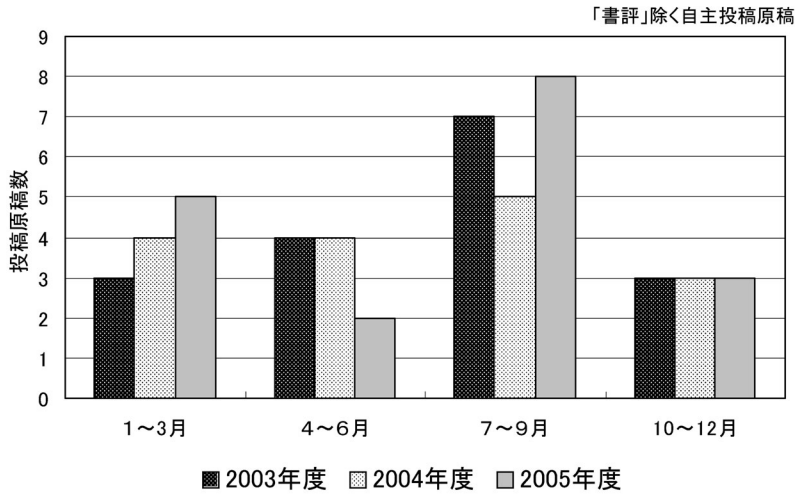
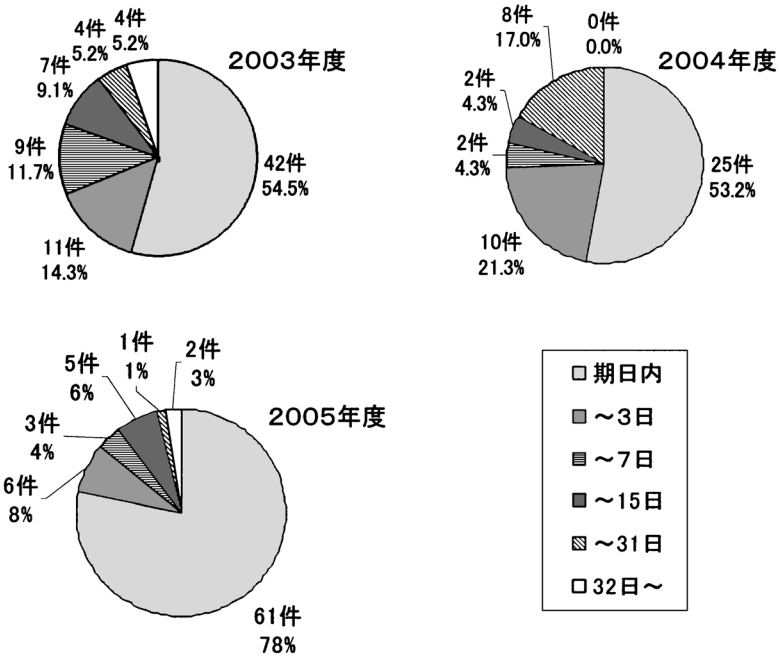


図-4　四半期別の投稿原稿数（2003～2005 年：受付分）



注1）　日数は期日からの超過日数。

注2）　投稿原稿と依頼原稿「シンポジウム紹介」「講座」「100 号特集原稿」を対象とする。
但し、「土粒子」「書評」およびシンポジウム総合討論の紹介原稿は除く。

図-5　閲読に要した日数（2003～2005 年度）

います。

土壌物理学会では，既に「土壌の物理性」1–100号の掲載全記事の検索システムが学会ホームページ上で稼動しています（溝口，2003）。土木学会論文集は，2006年1月からJ-stage（(独)科学技術振興機構の運営する科学技術情報発信・流通総合システム）上の電子ジャーナルに全論文等を掲載すると共に，従来の紙媒体による論文集も同4月からCD-ROM版に切り替えています。また，投稿や閲読のプロセスも同6月から全面的に電子化する予定です（土木学会編集委員会，参照2006）。農業土木学会論文集でも，投稿中の原稿の閲読状況がホームページ上で公開されています（農業土木学会編集委員会，参照2006）。

「土壌の物理性」において土木学会論文集のようなシステムの導入は，学会誌/論文集の性格の違いや費用の問題の他，学会内にはインターネット上での掲載原稿の公開に対してさまざまな意見があり，現時点では困難です。しかし，近未来には学会内での議論と合意を踏まえた上で，編集作業の更なる効率化や迅速化，透明化，情報の流通性向上に向けて，体系的な情報化への対処の取り組みが求められそうです。

おわりに

前・現編集幹事の責任において「土壌の物理性」の編集実務に関する記録を取りまとめました。「土壌の物理性」編集発行に対する建設的な議論の参考になれば幸いです。

引用文献

土木学会編集委員会（参照 2006. 5. 16）：土木学会論文集の投稿の電子化について，土木学会，（オンライン），入手先〈http : //www.jsce.or.jp/committee/jjsce/kaikoku200508.htm〉

溝口　勝（2003）：「土壌の物理性」検索システム．土壌の物理性，**92**：41–42.

農業土木学会編集委員会（参照 2006. 5. 16）：投稿論文等の閲読状況一覧，（オンライン），入手先 http : //www.jsidre.or.jp/publ/ronbun/etsudoku.htm

受稿年月日：2006年 5 月19日
受理年月日：2006年 5 月22日